

主 題：パトモス島での幻2

聖書箇所：黙示録 1章13－15節

ヨハネに語りかける声を見ようと振り向いたときにヨハネは幻を見ました。最初の幻でした。そのことが1章12節から記されています。「七つの金の燭台が見えた。」とあります。そして、その燭台の間に「人の子のような方が見えた。」とそのようにヨハネは教えています。13節には「それらの燭台の真ん中には、足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めた、人の子のような方が見えた。」とあります。ヨハネは神からの大切なメッセージを、この後七つの教会へ送っていきます。その送るメッセージの重要性、また、その真実性というものを読者たちがしっかりと確信するようにと、これから私たちが見ていくこのメッセージをここに記したのです。いったい、これから語るメッセージはだれから出たものなのか？だれがこのメッセージをヨハネに託したのか？そのことを彼は明らかにするのです。また、この読者たちはもうすでに見て来たように、信仰ゆえに迫害を経験しているクリスチャンたちでした。どのような迫害を経験していようと、その問題、その困難に勝利するためには、勝利の主を見上げて歩むことが絶対に必要です。私たちもいろいろな問題を経験しますが、問題だけを見ていると必ず失敗します。私たちに必要なことはその背後におられる神を見ることです。そのためにもヨハネは、どんな方が私たちの主なのか？どんな方がこのメッセージを託すのか？どんな方がこのメッセージを語っているのか？と、読者たちの目をその直面している迫害から背後におられる全能の神に向けようとするのです。

こんな神がこのメッセージをあなたに与えるのだ、こんな方があなたの神なのだと。そこに様々な問題に対する勝利の秘訣があります。今日と次回、私たちはこの主がどのような方として描かれているのか？そのことを見ていきます。前回まで見たのは、

A. ヨハネの人格 9 a 節 B. ヨハネの迫害 9 b 節

C. ヨハネに示された幻 10－16節

1. 示されたとき

2. 示された方法

3. 示された幻 12－16節

◎ヨハネの見た第一の幻 12－16節、20節

(第二は4章－16章、第三は17章－21章8節、第四は21章9節－22章5節)

(教会における主イエスの働きが記されている)

1) 七つの金の燭台 12節

ここまで見て来ました。

2) 「人の子」とは？ 13節

13－16節には人の子の描写がされています。「人の子」はどのような方か？その説明がされています。それを見ていきますが、その前に、「人の子」について説明をします。「人の子のような方」と書かれていますが、いったい、だれのことか？恐らく、皆さんは「主イエスのことでしょう」と言われるでしょう。イエスはこの地上におられたとき、ご自分のことを「人の子」と呼んでおられました。イエスはご自分のことを他の呼び名よりもこの「人の子」という呼び名を最も多く使っていました。ですから、確かに、「人の子」とはイエスのことと私たちは思います。確かにそうなのです。

* 「人の子のような方」とは、主イエス・キリストのこと

イエスが敢えてこのことばを使われたのは次のような理由からです。

◎「人の子」ということばを使った理由

・主イエスの人間性を明らかにするため

つまり、イエスは私たちと同じ人間である、もちろん、罪の性質はありませんから、罪を除いて全く私たち人間と同じようになられたのです。ですから、自分のことを「人の子」と呼ばれたのです。また、「人の子」と言われたことはご自身の謙虚さをも表わしています。今から約2000年前にお生まれになった方は、すべてをお造りになった創造主である神であられます。その神が人となってこの世に来てくださった。それだけでなく、創造主なる神は、ご自分が創造された人間から、また、罪を赦すために来てくださったにも拘わらず、その罪人から憎まれ拒絶され蔑まれ嘲られ、最後には十字架に架けられたのです。ここまで主はへりくだられたのです。人となっただけでなく、十字架の死にまでも父のみここに従順に従っていかれた謙虚な主です。

私たちは「人の子」ということばからこのことを見るのです。確かに、人となられた神です。そして、十字架にまで従順に従っていかれた謙虚なお方、私たちがまねできないへりくだったお方です。

・主イエスは約束の救世主であるから

「メシヤ」、救世主、キリストということです。ダニエル書 7：13 をご覧ください。「私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。」、ダニエルが幻を見ているのです。「人の子のような方が」と記されています。ちょうど、ヨハネが「人の子のような方が見えた。」と言ったように、ダニエルも同じことを記しています。ヨハネがそのことを記したとき、間違いなく、このダニエルのことばを覚えていたのでしょう。

なぜなら、同じ人物のことを言っているからです。ダニエルが言った「人の子」とは「約束の救世主」のことです。人類が待ち焦がれていた救世主のことです。人類をその罪から救ってくださる唯一の救世主のことです。

主イエス・キリストは今から約 2000 年前、この地上にお見えになったとき、初臨といいますが、そのときは罪人の罪を赦すために人の子としてお見えになりました。そして、罪人の救いを十字架の死によって完成されました。この「人の子」が再びこの世に戻って来られるのです。そして、世にさばきをもたらされます。千年の王国を築いていけます。その約束の救世主、そのことをダニエルは教えたのです。イエスはこのことを何度も教えておられました。その一つ、マルコ 13：26 「そのとき、人々は、人の子が偉大な力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。」と、このようにイエスご自身も約束の救世主が戻って来ることを話しておられます。

イエス・キリストが捕えられた時、大祭司によってさばきを受けた時、大祭司カヤパの家でさばきが為されました。同じマルコ 14：61－62 に書かれていますが、ここで起こった出来事は私たちに力と勇気をくれるものです。大祭司はイエス・キリストに質問します。「：61 …大祭司は、さらにイエスに尋ねて言った。「あなたは、ほむべき方の子、キリストですか。」、こんなにはっきりとイエスはご自分が約束の救世主だと言われたのです。その上で大祭司に対してイエスはこのように言われました。「：62 そこでイエスは言われた。「わたしは、それです。人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずで。」と。確かに、救世主が人としてこの世にお生まれになりました。そして、後にはこの同じ救世主が雲に乗って再びこの地上に帰って来られると、そのように言われたのです。

ステパノという信仰の勇者のことを思い出しませんか？彼は無実で捕えられました。そして、彼に弁明の機会が与えられました。彼は弁明したのではなく、その機会を用いて主の証をします。すばらしい信仰者でした。使徒の働き 7 章に記されていますが、聖霊に満たされていたステパノは天を見つめて神の栄光と神の右に立っておられるイエスを見てこのように言っています。「こう言った。「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます。」（7：56）と。「人の子」と言いました。ステパノが天を見上げたときにそこにだれを見たのか？父なる神の右に立っているイエスを見て、イエスのことを「人の子」と言ったのです。

◎この「人の子」という称号は二つの意味で用いられている

（1）初代教会がキリストの称号として用いた

（2）さばき主

イエスはヨハネの福音書の中でこのように言っておられます。5：22, 27 「：また、父はだれをもさばかず、すべてのさばきを子にゆだねられました。」 「：27 また、父はさばきを行う権を子に与えられました。子は人の子だからです。」、「人の子」、さばきを行なうさばき主のことです。その「さばき主」を「人の子」と呼んでいます。使徒の働き 17：31 には「なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの確証をすべての人にお与えになったのです。」とあります。

ですから、「人の子」と見たときにその称号が表わしているのは、救世主、メシヤのことであり、もう一つは「さばき主」であるということです。さて、少なくとも「人の子」の意味はよく分かりました。この後ヨハネは、この「人の子」について説明を加えていきます。どのようなお方なのかを見ていきましょう。

3) 人の子・主イエスに関する八つの直喩

たとえを用いてイエスとはどのようなお方なのかを明確にしていきます。

（1）主の衣服 13 節

「それらの燭台の真ん中には、足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めた、人の子のような方が見えた。」と説明されています。「衣」というヘブル語は日本語の聖書では「上着、外套、青服」と訳されています。これは確かに、祭司や大祭司が身に着けたものに非常によく似ています。だから、ある学者たちは「大祭司としてのイエスの働きをヨハネはここで言わんとしたのではないか？」と言います。アロンもそのような服を身に着けていたし、サムエルという預言者も同じでした。そのことは出エジプト記 28 章や I サムエル 15 章に記されています。しかし、ここではその意味でヨハネは使っていないと思います。

◎王である主イエス

確かに、イエスは**大祭司**です。私たちのためにとりなしてくださっている、いつも祈ってくださいています。でも、ここではそういう意味ではないと、そのように考えるのは、ヨハネの黙示録を見たときに、イエスが祭司であると記されている箇所がないからです。この箇所では「大祭司」という以外の意味があるに違いないのです。実は、ここでイエスが身に着けておられた衣は祭司だけでなく、高貴な人、身分の高い人、たとえば、王も身に着けていました。サウル王もそうであったことがⅠサムエル24章に書かれています。そして、サウル王の息子のヨナタンも身に着けていました。Ⅰサムエル18章に書かれています。そして、皆さんよくご存じのダビデもそうでした。

ですから、祭司だけではなかった。王も同じような衣を身に着けていたのです。恐らく、ヨハネがここでイエスを見たときに、イエスは地上でともに歩んでいた時、イエスが十字架に架かる前もその後も、イエスは罪人から蔑まれていたけれど、このイエスはそうではなく、王の王であられる方としてのイエスだったのです。

◎神の使者である主イエス

もう一度、ダニエル書に戻ってください。10：5に「私が目を上げて、見ると、そこに、ひとりの人がいて、亜麻布の衣を着、腰にはウファズの金の帯を締めていた。」と書かれています。「ウファズ」とは金の生産地です。黙示録の記事と非常に似通っています。黙示録では「足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めた、」です。ダニエル10章の箇所は、実は、ダニエルが神のメッセージを伝える人の幻を見ているのです。10：11－14を見ると、彼がダニエルにメッセージを語っている姿が書かれています。「：11 それから彼は私に言った。「神に愛されている人ダニエルよ。私が今から語ることばをよくわきまえよ。そこに立ち上がれ。私は今、あなたに遣わされたのだ。」彼が、このことばを私に語ったとき、私は震えながら立ち上がった。：12 彼は私に言った。「恐れるな。ダニエル。あなたが心を定めて悟ろうとし、あなたの神の前でへりくだろうと決めたその初めの日から、あなたのことばは聞かれているからだ。私が来たのは、あなたのことばのためだ。：13 ペルシヤの国の君が二十一日間、私に向かって立っていたが、そこに、第一の君のひとり、ミカエルが私を助けに来てくれたので、私は彼をペルシヤの王たちのところに残しておき、：14 終わりの日にあなたの民に起こることを悟らせるために来たのだ。なお、その日についての幻があるのだが。」。

ですから、この衣を着て金の帯を締めていた人物はだれだったのか？名前は出て来ませんが、この人は神から遣わされた人、神の使者であったと言えるのです。恐らく、ヨハネはこの人物、主イエス・キリストを見た時に、この方は王であり、そして、神から遣わされた使者である、メッセンジャーであると分かったのです。このイエスは神から遣わされた忠実な証人であると。なぜ、このことが最初に出ているのか？初めにも話したように、このメッセージは迫害されている人々に届けられていくからです。このメッセージがいったいどこから来たのか？そのことを人々は知らなければいけないのです。

ヨハネは最初に「このメッセージは王の王から、すべてのものを支配している方、その方からのメッセージです。この方は神の使者であって、神からのメッセージを忠実に正確に伝える人だ。その方が私にメッセージを託してくれた。だから、このメッセージは信頼できる、だから、信頼を置きなさい。」と言うのです。ゆえに、13節で教えられているイエス、その衣が意味していたことは、

***私たちの主は尊厳、名誉にふさわしい王なるお方である** 　　です。そのことをヨハネは初めに教えるのです。

(2) 主の頭髮 14節

次に見るのは14節「その頭と髪の毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く、」という箇所です。マスターズ神学校のドクター・トーマス先生は、「ヨハネの一つの癖というものは、最初におおざっぱに書いてその後具体的に表現すること」と言っています。まさに、それを見ます。頭を見て、次に髪の毛のことです。ぱっと見た時にその頭が白かった、その白いのは髪の毛であったと、ヨハネはこういう書き方をしている、これは彼の書き方の特徴であると言うのです。これから示されること、ヨハネが語っているのは、「人の子」イエスの特徴です。この方の頭髮のことです。それが「白い羊毛のように、また雪のように白く」と言っているのです。

実は、これもダニエル書に記されています。ダニエル7：9に「私が見ていると、幾つかの御座が備えられ、年を経た方が座に着かれた。その衣は雪のように白く、頭の毛は混じりけのない羊の毛のようであった。御座は火の炎、その車輪は燃える火で、」と、非常に類似した表現が使われています。この人物が御座に着かれたと言います。では、この「年を経た方」は何のためにその御座に着かれたのでしょうか？続けて7：10に「火の流れがこの方の前から流れ出ていた。幾千のものがこの方に仕え、幾万のものがその前に立っていた。さばく方が座に着き、幾つかの文書が開かれた。」と書かれています。年を経た方はさばきをするために御座に着かれるのです。「年を経た方」とはだれなのか？「父なる神」です。

もう一度ダニエル書を見てください。7：13に「私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような

方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。」とあり、明らかに、この雲に乗って来られる方と別の方が存在しています。同じ存在ではありません。雲に乗って来た方が年を経た方のもとに進みその前に導かれていくのです。

黙示録 1：14に「その頭と髪の毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く、」とあるのは、父なる神のことではなく、「人の子」、イエスのことです。ヨハネは旧約聖書のみことばを引用して、ダニエルが言っていた「父なる神」、年を経た方であり頭髮が真っ白な方、その描写をそのまま使って、それを主イエス・キリストに適用しているのです。ヨハネはこのイエスは父なる神と同じ神だということを言っているのです。イエスの神性を表わしているのです。

この「白髪」について説明をします。これは「知恵と威厳」という概念を含んでいます。レビ記の中に19：32「あなたは白髪の老人の前では起立し、老人を敬い、またあなたの神を恐れなければならない。わたしは【主】である。」とあります。ウィリアム・ニュールというムーディ聖書学院で働きをされた神学者がこの色に関してこのように言っています。「白、それは不滅、不死、永遠の色であり、また、同じように聖さの色である。」と。ですから、白は永遠の色であり、また、聖さを表わす色です。ヨハネが「人の子」イエスを見たときに、その頭髮が雪のように白かったと言うのは、この方が神だということだけではなく、***主は永遠に存在し、また、完全に聖い義なるお方である** と教えるのです。

(3) 主の目 14節

主の目のことです。14節の後半に「その目は、燃える炎のようであった。」とあります。実は、これもダニエル書10：6に記されています。「そのからだは緑柱石のようであり、その顔はいなずまのようであり、その目は燃えるたいまつのようであった。」、ここでは「燃えるたいまつのように」、そして、ヨハネ1：14では「燃える炎のよう」です。ヨハネはそこで見た幻を一生懸命説明しようとするのです。この旧約聖書のみことばを使いながらその説明をするのです。主の目が「燃える炎のようであった」というのは、主はすべてのことをご覧になっているということです。なぜなら、私たちが物を見るためには光が必要です。明るさがないと物が見えません。全く光のない所では何も見えません。でも、この方の目というのは明るいのです。光があるのです。「たいまつのようにである、炎のようにである」と、つまり、明かりがあるということです。

ですから、この方はすべてのことをご覧になっている。つまり、***主は全知のお方である** と言っているのです。エレミヤ32：19で神に関してこのようなことが記されています。「おもんばかりは大きく、みわざは力があり、御目は人の子のすべての道に開いており、人それぞれの生き方にしたがって、行いの結ぶ実にしたがって、すべてに報いをされます。」と。「おもんばかりは大きく」とありますが、口語訳の方が分かり易いです。「計りごと」となっています。神の計りごと、それは大きく、みわざは力があり、神の目は人の子のすべての道に開いていると。だからこそ、人のそれぞれの生き方に従ってこの方は報いを与えることができるというのです。

皆さんもよくご存じのように、私たちの神は私たちのすべてを見ておられます。あなたの考えも思いも想像もことばもすべてのことを。なぜなら、この方はここにあるように「その目は、燃える炎のようであっ」て、常に、すべての物が見えている明るい状態にあるからです。このことは確かに、迫害下にいるクリスチャンたちにとって大きな励ましだったでしょう。なぜなら、自分たちがどんなに苦しい目に遭っているか、神は「ちゃんと見ています」と言われるからです。恐らく、皆さんもいろいろなことを経験されているでしょう。信仰をもって、クリスチャンとして喜んで神に従って行こう、神の栄光を現わそうしていろんなことを経験します。

どの時代でも、神が言われることは「わたしはあなたを見ている。心配しなくていい。わたしはあなたにふさわしい報いを与えるから。」です。主に希望を置いて生きている人にとっては大きな慰めです。だれも分かってくれなくてもちゃんと主は見ておられる。あなたがどれ程主を愛しているかを見ておられると。あなたの主に対するその忠実な歩みを見ておられる、それにふさわしい報いを与えてくださると。でも、主の前をいい加減に歩んでいる人たちにとってこれは恐いみことばです。なぜなら、私たちが主の前に立ったときに、私たちのすべてが明らかにされるからです。

三つ目に、ヨハネは「主は全知のお方である、主はすべてのことをご存じの方だ」と説明しました。

(4) 主の足 15節

今度は15節「その足は、炉で精錬されて光り輝くしんちゅうのようであり、」と「主の足」のことです。これもダニエル10：6「また、その腕と足は、みがき上げた青銅のようで、」と記されています。ここには金属が出て来ました。この金属に関して、元ダラス神学校の学長を務められたジョン・ワルブード先生はこのような説明をしています。「しんちゅう、あるいは、より適切な訳は青銅（銅の合金と言われている金属は、旧約聖書において、罪のための犠牲と関連して用いられたしんちゅうの祭壇やその他の銅でできた道具）が具象的に表現しているように、神のさばきを象徴している。」と。

確かに、しんちゅうの祭壇や、また銅で作られた様々な道具がありました。これらが使われた目的は罪のための犠牲に関連していたと言うのです。そのようなことから、この金属が表わしているのは「神のさばき」だと言います。確かに、ヨハネはそのことをここで言わんとしたようです。

ヨハネはどうしてただ「しんちゅう」と書かずに「炉で精錬されて光り輝くしんちゅう」という説明を加えたのでしょうか？「精錬する」というのは、その金属の不純物を除いて純度を上げるためにします。イエスはその働きをなさると言うのです。では、それはどのような働きなのか？黙示録2：1をご覧ください。「エペソにある教会の御使いに書き送れ。『右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方が言われる。』、この主は燭台の間、つまり、教会の間を歩き回っておられるのです。そこでこれと先ほどの金属のことを思い出してください。この主は教会の間を歩いておられる、何のために？その金属の純度を上げるためにです。より聖いものにするためです。主が為さることは、教会において、罪を犯している人々をさばかれることです。なぜなら、主は教会を聖めるお方だからです。私たちが見て来たように、この教会は主に属するものです。そして、主が為さろうとしていることは、ご自身の教会をより聖めていくことです。それはご自身の栄光を現わすためにです。

ですから、みことばは私たちに教えるのです。教会の中で、クリスチャンと言われている人々の中で、罪を犯している人々に対して、彼らの罪を指摘して、その罪を明らかにして、彼らがその罪から悔い改めてそこから離れるようにとするのです。なぜなら、クリスチャンが罪を犯し続けているなら、何の祝福もないからです。ですから、神は「その罪を悔い改めるように」と言われるのです。まさに、イエスの働きはご自身の教会にあって、そのように罪を犯し続けている人々を聖める働きです。だから私たちに、罪を犯した兄弟姉妹に対して罪を責めてそれを悔い改めるように勧めていきなさいと、教会の戒規を教えているのです。それはこのような働きを主が為さるからです。

***主は教会を聖めるお方である** 私たちが何度も学んでいるように、教会が聖くなくてはどのようにして聖い神の栄光を現わすことができるでしょうか？神の栄光を現わすためには、各人が、そして、群れが罪を憎む者である必要があります。その時に神は私たちを通してご自身の栄光を現わしてくださるのです。主はこのように教会を聖めるお方だと、ヨハネは教えます。

これまで、イエスの衣を見ました。主は尊厳、名誉にふさわしい王なるお方、この方は王の王であられるお方、すべての被造物はこの方を崇め、この方に仕えるべきそのような存在であると。そして、この方の頭髪を見た時に、この方は永遠に存在し、また、完全に聖く義なるお方である、すべての点において聖いお方だと、そのような神だと見ました。そして、この方はすべてのことをご覧になっておられる全知のお方であると。そして、四つ目に見たのは、この方はご自身の教会を聖められるお方である、罪を憎んでいる方、どんなに小さな罪でも憎んでいる方だということです。

(5) 主の声 15節

五つ目に「その声は大水の音のようであった。」とあります。これは強い力を表わしています。大変強い力です。ヨハネはどこでこの幻を受けましたか？パトモス島でした。小さな島です。彼はその牢の中にいて、嵐の時に海岸に激しく打ちつける波の音を何度も聞いて来たのです。その力強い音です。彼が言わんとしているのは神の御力のことです。詩篇93：4に今見ているのとよく似た表現が記されています。「大水のとどろきにまさり、海の力強い波にもまさって、いと高き所にいます【主】は、力強くあられます。」、この詩篇の著者は神の御力をこのように表現しました。神は最も力のある方だと。また、エゼキエルもこのように言っています。エゼキエル書43：2「すると、イスラエルの神の栄光が東のほうから現れた。その音は大水のとどろきのようであって、地はその栄光で輝いた。」（1：24「彼らが進むとき、私は彼らの翼の音を聞いた。それは大水のとどろきのようであり、全能者の声のようであった。それは陣営の騒音のような大きな音で、彼らが立ち止まるときには、その翼を垂れた。」）、エゼキエルはエルサレムの宮に戻って来られるその主の栄光を見、そして、聞いたのです。そのことを表現したのです。まさに、それは「大水のとどろきのようであった」と。つまり、ヨハネは、この神からのメッセージ、これを与えられた神の権威を表わしているのです。この方の権威、この方の力です。私たちの神がどれ程力をお持ちなのか、そのことを教えようとするのです。

確かに、私たちの神はそのような神です。覚えていますか、皆さん？イエスと弟子たちがガリラヤ湖にいて嵐がやって来たとき、弟子たちが水をかぶって危険になったときのことです。ルカ8：24「そこで、彼らは近寄って行ってイエスを起こし、「先生、先生。私たちはおぼれて死にそうです」と言った。イエスは、起き上がって、風と荒波とをしっかりとつけられた。すると風も波も収まり、なぎになった。」、弟子たちは驚きました。主が命令したら自然界もその命令に従うのです。私たちの神はそのような神だということを言っているのです。

また、これも皆さんよくご存じでしょう？ラザロは死んでから四日も経っていました。兄弟たちも「四日も経っている人が死からよみがえって来ることなんてあり得ません。」と言います。そうです、から

だに腐敗しています。そのとき、イエスはその墓の前に立って何を言われましたか？薬をもって来なさいとか、医者呼んで来なさいなどとは言われなかった。ヨハネ 11:43「そして、イエスはそう言われると、大声で叫ばれた。「ラザロよ。出て来なさい。」と、このおことばだけでラザロはその墓から出て来たのです。その死に打ち勝って出て来たのです。

私たちが気づかなければいけないことは、私たちの神はこのようなお方だということです。ヨハネはそのことをここに記しているのです。彼は、***主は最高の権威者である** この方には最高の権威がある、この方が命じたならすべてその通りになるのです。自然界だけではありません。私たち人間にはどうすることもできない死でさえも言うことを聞く、それだけの権威を持つお方だ、それが私たちの神だと。

思いませんか？このメッセージを聞いた迫害下にある多くのクリスチャンたちはどれ程励ましを得たか。私たちは敗北者の側にいるわけではありません、皆さん。勝利者の側にいるのです。私たちは敗北することはないのです。先ほど賛美したように、サタンでさえも私たちに打ち勝つことはできないのです。なぜなら、私たちは全能なる神の側にいるからです。ヨハネは「それが私たちの神だ。それが私の神だ。私の主は最高の権威者だ。この方に優る存在はどこにも存在しない。」と言います。

このようなお方によってあなたも私も救いに与りました。この方がいつも私たちとともにいてくださるのです。救われたということはすばらしいことです。天国が与えられただけでない、この神が私たちとともにいてくださるのです。この祝福をいただいた者たち、私たちにはやはり伝えるべきメッセージがあります。「私たちの神は偉大な神だ」と。かつての偉人ではないのです。人間が作ったものではありません。私たちをお造りになった方です。そして、私たちを救ってくださった方です。

どうぞ、信仰者の皆さん、今あなたがどのようなところにおられるのかは分かりません。でも、私たちに必要なことは、みな、この主を見上げることです。しっかり覚えることです。どんな主が私たちの主なのか？どんな神が私の神なのか？ということ。そこに勝利がある、そこに励ましがあります。

どうぞ、そのように主を覚えて、この一週間しっかり歩み続けてください。

《考えましょう》

1. 主イエスはご自分のことをどうして「人の子」と呼ばれたのでしょうか？ 説明してください。
2. 「人の子」という称号の2つの意味を説明してください。
3. ヨハネは8つの直喩をもって、主イエスがどのようなお方なのかを説明しました。
今日学んだところから、主イエスがどのようなお方かをあなたのことばで説明してください。